

ほんのしるべ

青標

2018.
7月号

2018年7月5日発行（毎月1回5日発行）
通巻476号 昭和61年7月15日第三種郵便物認可



世界の本屋さん

vol. 79

ポーランド・ワルシャワ ボレスワ・プルーヌ書店

ノセ事務所
能勢 仁

ワルシャワ大学の真ん前にあるのが、ボレスワ・プルーヌ書店である。ワルシャワ大学は一八一六年に創設され、シヨバンも一八一二年から三年間音楽院に籍を置いた。大学正面といっても堅苦しい感じは全くしない。この書店は一九五二年創業、営業時間は月々金十〜十九時、土日十〜十四時。この店名は直訳すると「科学の書店」で、店の前の通りはクラコフスキエ・プシエドミエツィエ通りである。店は一階三十坪、横長の店で、一階の奥に喫茶室があり一般読者がよく利用する。

二階は喫茶専門の階で、ゼミの学生のコンパに使われたり、グループの集會が多いという。教授達もよく利用するそうだ。

一階：外交、ポーランド史、近代ポーランド史、世界史、人類学、音楽



美術、哲学、伝記、戦争史、社会学、世界政治等。歴史の平本台に「Historia Japonii」があった。

地階：法律、税法、刑法、EUの法律、外国語、教育学、心理学、ヨーロッパ学、理系の本、ガイドブック、ペーパーバックス。ペーパーバックスの小説は一五〇円、三〇〇円、四五〇円、六〇〇円に分類、陳列されていた。

踊場：バーゲンセールの本。殆どがPBである。

この店は人間の温かみの伝わってくる店であった。一階レジ担当者、喫茶室の人、接客してくれた総ての女性社員は皆親日的であった。店長の男性がこの店の社史をプレゼントしてくれた。社員は一階五名、喫茶一名、地階一名であった。

ちらちらと白く光っているのが、

ミラノの大聖堂の尖塔だとわかるのに、

それほど時間はとらなかつた。あ、ミラ

ノだ。とっさにそう思ったのだったが、

そのことで心がはずんだことに、私は

小さな衝撃を受けた。

須賀敦子著『ここへの旅』

(ハルキ文庫)より



もくじ

世界の本屋さん 79

「書標」歳時記△7月▽

著書を読む⑤ 『佐藤ジュンコのおなか福福日記』

佐藤 ジュンコ

1

書標・書評 『万引き家族』ほか

特集 あなたはマルクスを読んだか

教え、育むということ

今月のおすすめ

社 会 科 学	18	コ ン ピ ュ ー タ	20
自 然 科 学	21	医 学 書	22
人 文 科 学	23	文 学 ・ 文 芸	24
文 庫 ・ 新 書	25	芸 術	26
実 用 書	27	地 図 ・ 旅 行 書	27
語 学 ・ 辞 典	28	児 童 書	29
インフォメーション			30

本屋つらばなし 「ふわっとした問い合わせ」

※表示価格はすべて本体価格です。



『佐藤ジュンコのおなか福福日記』 佐藤ジュンコ





『佐藤ジュンコのおなか福福日記』
ミシマ社・1,500円



『万引き家族』

是枝裕和著

宝島社・一三〇〇円

是枝裕和監督が映画『万引き家族』で先日カンヌ国際映画祭パルムドール賞を獲得しました。本書は監督本人による小説『万引き家族』です。

今回私は、この映画を見に行き、余韻を味わいたくて本を手に入りました。

物語は、スーパーマーケットでの万引きシーンから始まります。まず、試食のミカンを手に入れます。帰りの商店街でコロッケを買い、そして団地が登場します。わかりやすい庶民像です。しかしこれが是枝監督の手にかかると一層現実味を帯びた風景になります。取り立てて悲壮感のある情景を描こうとしないのかもしれませんが、そこにある風景をただ映しているようです。映像においてだけでなく、本にもそれが言えます。私が初めて是枝作品を見たのは一九九九年公開の『ワンダフルライフ』で、死んでから、死後の世界へと旅立つ人たちが思いつく出を語るといのが主なストーリーでした。出演者たちの語りのリアルさに惹きつけら

れました。実際この部分は演技ではないようです。このドキュメンタリーの手法は監督の十八番です。

例えば今回の映画で女の子が髪を切ってもらうシーン、そのときの鏡の中の自分を見てはにかむ姿は、たぶんこれも演技ではないのでしょうか、本当に照れているようです。相当おかしな状況に置かれているシーンなのに、見ている私たちは、一瞬幸せを見つけた気がします。

本を読んでいると、映画の場面と重ね合わせ、出演者たちの演技を確かめるように何度も同じ文章を読み込んでしまっています。また、最後まで淡々としたこの本の筆致のどこに自分は惹きつけられるのだろうかと確認したくて、幾度もページをめくり返してしまいました。(み)

『はじまりが見える世界の神話』

植木 朗子編著

阿部海太 創

元社・一七〇〇円

遙か昔から人間は、世界の様々なところで、自分たちが生きるこの世界がどのようにして作られてきたのか思いを巡らせてきた。それぞれの国に存在する神話は、通底するものは自然への畏怖だと感じられる。

この本では、二十の「この世のはじまり」の物語が画家・阿部海太さんの絵とともに紹介されている。

阿部さんは絵本『みち』（リトルモア）を二〇一六年に刊行した。鮮やかな色彩と、筆致を残した独特なタッチで描かれる幻想的な風景。言葉の使用を最低限に抑えているが、絵の持つ力強さが言葉と同じくらい雄弁に訴えてくる。そんな作品が本書には欠かせない存在となっている。

阿部さんは生命が生まれる前の世界を美しく、時に恐ろしく描き出している。生命が産み落とされる前の世界には、ただ闇のみが渦巻いている。そこに神が手を加えることよって光が生まれ、大地と空が分かれ、水や植物、動物、そして人間が生み出される、というパターンを持つ神話は多い。得体のしれないものもつ不気味さ、生み出されたばかりの命の輝きが放つ眩い光が対照的で鮮やかな色彩によつて強調される。生命の原始的な力強さを文字による語りと絵から感じ取ることができる一冊だ。

緻密に装飾された文章や絵画も美しいが、ラスコーの壁画を見たときのように、遙か昔の人々が制限のある環境下で作った作品には、粗削りだからこそ人を惹き

つけてやまないものがある。

目に見えない世界の神秘を言葉と絵で辿ることのできる贅沢な本書をきっかけに、神話について深く知りたくなることだろう。

(齊)

『絵本の冒険 「絵」と「ことば」で楽しむ』

小野 明編 フィルムアート社・一七〇〇円

本書の帯には、版画のイラストが印刷されている。家ほどもある巨大な絵本が連なっており、リュックを背負った旅人風の人物が、その絵本の中へ入っていったかと思えば、地図片手に隣の本から出てくる。そのまた隣では、本の中で佇んでいる。想いのままに本から本へと渡っていくこの人物の姿は、子どもにも大人にも見える。新たな絵本との、また再びの絵本との出会いへ繋がる一冊だ。

本書は、編集者・装幀家であり、同じく編集者の土井章史とプロの絵本作家を目指す人の為のワークショップを共同主宰する小野明による編集。五味太郎と荒井良二の対談に始まり、タイプの異なる絵本のつくり手による絵本への思いや、制作体験が繰り返される。その中には、祖父江慎、梨木香歩、穂村弘など他分野でも活動してい

る面々も。つくり手に留まらず、哲学・心理・医学からの見解や日本の絵本小史も記され、絵本という表現と、その周辺を探る。取り上げられる絵本は、ロングセラー・近年作品を問わずジャンルも幅広く、ブックリストとしても頼もしい。

はっとするのは、生活絵本の定番「はじめてのおつかい」を、じっくりと読み進める企画。この絵本で大胆に展開される画面は、単なる省略とは言い難いほどに主人公の心情表現とびつたり結びついている。ページをめぐるごとに広がる豊かな世界が、とても練られて構成されていることが伝わる。

絵本をより楽しみたい人は勿論のこと、新たな表現を模索する人も是非。

(山)

『サービス経済の拡大と未来社会』

飯盛信男著 桜井書店・三〇〇〇円

いわゆる「先進国」の産業構造は、今日その過半を三次産業が占め、中でもサービス産業の割合とその伸長速度が際立っている。ところが、労働力の商品への転移から論を進めるマルクス経済学では、価値は物財にのみ宿するという通説が主流であるため、サービス産業の価値形成過程が明らかにされてこなかった。

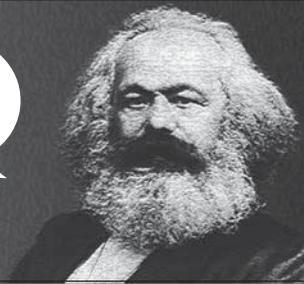
だが飯盛は、「サービス産業の今日の発展段階を見ればそれは時代錯誤」と、通説を批判する。一方で、サービス労働とは労働能力を形成する労働であるという説に対しては、労働力は人間の能力そのものであって生産物ではないと反論、「サービスは物財と同じく生産物そのもの」であると主張する。そして、サービス部門が産業全体に占める割合の増大は、「生産力が十分に高まった段階で、人間じしんの能力の発展が自己目的とされる真の人間的な社会（自由の王国）が始まる」というマルクスの未来社会論に整合的であると説く。

サービスが価値を生む無形の生産物であるという飯盛サービス論の大前提に、ほくも賛同する。しかし、飯盛自身が指摘する、今の日本では労働集約型・低生産性・低賃金の代行型サービスが中心であることの問題性はもとより、それに対置される米国経済における高生産性専門サービスの急成長もまた、グローバルな金融・IT産業の寡占化・独占化を見ると、決してマルクスの理想社会への途とは言えない。

「自由の王国」を目指す、サービス産業・労働のドラステイックな変革こそ、今日の経済の最重要課題なのである。

(フ)

あなたはマルクスを読んだか



今年はカール・マルクス（一八一八・一八八三）の生誕二〇〇年です。文政元年に生まれて明治十六年に亡くなったこの人物は、疑いなく、歴史上最も影響力の大きかった思想家でしょう。

その思想をかんとんに語るのは無理ですが、戦後日本を代表する思想家・吉本隆明によるみごとな要約がありますので、引用しましょう。吉本は、マルクスの思想体系に見出される「三つの旅程」を、以下のように抽出しています。

「ひとつは、宗教から法、国家へと流れてくだる道であり、もうひとつは、当時の市民社会の構造を説明するカギとしての経済学であり、さらに、第三には、かれみずからの形成した、〈自然〉哲学の道である。」（吉本隆明『カール・マルクス』光文社文庫・四七六円）

マルクスの射程は、とても広いのです。そして興味深いのは、「マルクス主義者」ではない少なからぬ人が、その思想を発展させるトリガーとして、マルクスからインスピレーションを得ていることです。もしかしたら、マルクスの「魅力」はむしろ、「創造的誤読」を触発することにあるのではないか？

というわけで、今回の「愛書家の楽園」は、マルクスの代表的著作と「重要な「誤読」(?)の数々をご紹介しましょう。まず、何はさておき、マルクス自身の著作を挙げましょう。

たぶん、次の五冊が、マルクスのエッセンスを知るにはベストだと思います。
カール・マルクス／城塚登・田中吉六訳『経済学・哲学草稿』（岩波文庫・九〇〇円）
カール・マルクス、フリードリヒ・エンゲルス／廣松渉編訳・小林昌人補訳『ドイツ・イデオロギー 新編輯版』（岩波文庫・九〇〇円）

カール・マルクス、フリードリヒ・エンゲルス／大内兵衛・向坂逸郎訳『共産党宣言』（岩波文庫・五二〇円）

カール・マルクス／岡崎次郎訳『資本論（1）』（大月書店国民文庫・一二〇〇円）
カール・マルクス／植村邦彦訳『ルイ・ボナパルトのブリュメール18日【初版】』（平凡社ライブラリー・一五〇〇円）

『経済学・哲学草稿』は、マルクスがパリに亡命中の一八四四年に書いた原稿で、生前には発表されませんでした。が、一九三二年に公刊されると大きな反響を呼びました。キーワードは「疎外」。人

間が作った物や制度が、逆に人間を支配するようになる本末転倒状態のことで、資本主義の非人間性を表す言葉です。

『ドイツ・イデオロギー』も未完の草稿で、生涯の盟友エンゲルス（一八二〇・一八九五）との共著（一八四五・一八四六年）。マルクス自身も属していた「青年ヘーゲル派」の哲学者たちへの徹底批判で、のちに「唯物史観」などと呼ばれる、マルクス、エンゲルスの転回点になった著作です。岩波文庫版は故・廣松渉氏による綿密な校訂により、マルクスとエンゲルス各自の書き込みを、フォントを

区別するなどして綿密に再現。正直、本としては読みにくいことこのうえないですが、断片的に読んでも面白い。アフォリズム集のようにも読める鋭いフレーズが満載です。「哲学者たちはただ世界をさまざまに解釈してきたにすぎない。肝腎なのは、世界を変革することである」という有名な言葉を含む「フオイエルバッハ・テーゼ」も収められています。

『共産党宣言』（一八四八年）は、『資本論』と並んで最も有名な著作で、これもエンゲルスとの共著。当時彼らが属していた政治団体「共産主義者同盟」の綱

領文書で、共産主義（コミュニズム）のアウトラインを示したもの。革命運動に直結したアジテーションに満ちています。「ヨーロッパに幽霊が出る——共産主義という幽霊である」「今日までのあらゆる社会の歴史は、階級闘争の歴史である」という有名な言葉から始まり、こられた有名な「万国のプロレタリア団結せよ」とで終わります。このときマルクス二十九歳、エンゲルス二十七歳。

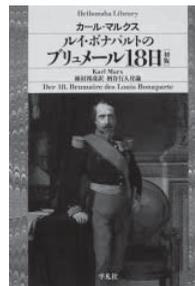


『共産党宣言』

主著『資本論』はずばり「資本主義」という巨大な怪物に挑んだ超大作。長かつ難解な著作ですが、まずは国民文庫版の（1）だけ読むといいと思います。

『資本論』は全三巻構成で、国民文庫版（1）には第一巻の三分の一が収められています。これだけでも読みごたえは十二分。初版刊行は一八六七年、マルク

スは四十九歳でした。ちなみにマルクスの生前に出版された『資本論』は第一巻だけで、第二巻、第三巻はマルクスの遺稿をエンゲルスが編集・補筆して刊行されました。



『ルイ・ボナパルトのブリュメール18日』

『ルイ・ボナパルトのブリュメール18日』は、マルクスの知られざるもう一面——ジャーナリストとしての才能を表す傑作です。一八五一年、共和制下のフランスで、ナポレオンの甥ルイ・ボナパルトのクーデターが成功し、しかもその独裁権力は国民投票で圧倒的な支持を得る。この一見不条理な事件はなぜ起きたのか？——人類学者レヴィ・ストロースが、自分の思考に活気を与えたいときに本書を読んでいたというのには有名な話です。

なお、全五十三巻四万ページにわたる大月書店版「マルクス＆エンゲルス全集」

は現在、オンラインで読めます (<http://www.keijou.jp/maruen/>)。本格的にマルクスを知りたい人はどうぞ。



『カール・マルクス』

次に、マルクスへの入門書を挙げておきましょう。

まず前記の吉本隆明『カール・マルクス』がおすすぬ。コンパクトな中にマルクスの生涯、青年マルクス、『資本論』のエッセンスが語られ、ランボーや宮沢賢治とも共鳴しあうという驚異の本です。詩人であった吉本の面目躍如と言えます。吉本はマルクスのどこに惹かれたのかも興味深いです。

廣松渉『今こそマルクスを読み返す』(講談社現代新書・八四〇円)は、日本のマルクス研究の一時代をつくった哲学者によるマルクス入門。初版は一九九〇年で、マルクス主義の一つの帰結で

あったソ連・東欧の社会主義体制の瓦解を前にして、「今こそ」マルクスを「読み返さなければならぬ」というメッセージがこめられています。マルクスが一新した世界観を、人間観・社会観・歴史観に分けて述べたうえ、『資本論』でマルクスが言いたかったこととして、物象化、資本と賃労働(搾取)、資本主義の命運などを論じます。新書ですが内容は重厚。

熊野純彦『マルクス資本論の哲学』(岩波新書・八八〇円)は、廣松の系譜に連なる哲学者による最新のマルクス入門。『資本論』を構成するテーマ群である「価値形態論」「貨幣と資本」「生産と流通」「市場と均衡」「利子と信用」等々を、「哲学者として」読むという試みで、さきに公刊された大著『マルクス 資本論の思考』(せりか書房)のエッセンスでもあるようです。

橋爪大三郎+ふなびきかずこ(イラスト)『労働者の味方マルクス——歴史に最も影響を与えた男マルクス』(現代書館・一二〇〇円)は、いわゆる全共闘世代で、若き日はマルクス主義者だったという社会学者によるマルクス入門。「マ

ルクスとマルクス主義をこっちゃんにしてはいけない。マルクスと共産主義をこっちゃんにしてもいけない」という立場から、キリスト教とマルクス主義の類似性、資本主義、マルクス主義、ポスト冷戦の世界などのテーマを解説。「労働者の味方」という言葉に著者のマルクス観のエッセンスが出ています。『資本論』を数式で精緻にモデル化した経済学者・森嶋通夫の仕事を要約した付録も有益です。



『労働者の味方マルクス』

さて、ここからが今回の本題。マルクスを独自に解釈したり、インスピレーションを得て生み出されたさまざまな学説・思想、あるいは「変奏」をいくつかご紹介しましょう。

まず、経済学。マルクス経済学は日本で独自に展開しましたが、特にユニークで大きな影響力をもったのが、東京大学

教授であった宇野弘藏です。『資本論』を嚙呑みにするのではなく、その疑問点を考え抜くことを主張し、マルクスとは一味違う独自の「原理論」体系を構築しました。たとえば「資本の生産過程」から始まる『資本論』とは異なり、宇野『経済原論』は「流通論」から始まります。宇野理論は、いわゆる近代経済学（現在の主流派経済学）に通じる面をもつていたためか、青木昌彦など、後年日本を代表する経済学者になった人々が、宇野理論を経由して近代経済学に転じました。宇野弘藏『経済原論』（岩波文庫・八四〇円）

第一級の経済学者にして思想家である岩井克人の『貨幣論』（ちくま学芸文庫・八四〇円）は、宇野理論も主流派経済学もブツ飛ばす野心的な論考。『資本論』第一巻の「価値形態論」を読み解き、その論理を徹底化することにより、資本主義のアルファでもありオメガでもある「貨幣」の謎に迫ります。「貨幣とは何か？」という問いを通して、資本主義にとつて何が本当の「危機」であるかを明らかにしようとした（著者後記）という

書物です。

かつては「近代経済学」と大学の講座を二分したマルクス経済学ですが、いまやほとんど瀕死状態です。が、どっこいがんばっている人たちもいます。マルクスの諸命題を数理的に徹底検証した経済学者・置塩信雄の系統をひく神戸大学の松尾匡氏もその一人。時事評論にも健筆をふるっていますが、マルクス経済学の現代化につくしています。

松尾匡・橋本貴彦『これからのマルクス経済学入門』（筑摩選書・一五〇〇円）



『これからのマルクス経済学入門』

サミュエル・ポウルズ／植村博恭・磯谷明徳・遠山弘徳訳『モラル・エコノミー——インセンティブが善き市民か』（N.T.T出版・三〇〇〇円）は、かつてマルクスを奉じる「ラディカル・エコノミスト」として活躍したアメリカの経済

学者の近著。現在のポウルズは、ミクロ経済学、実験経済学、行動科学の成果を取り入れた「進化社会科学」を標榜していますが、マルクスは依然として彼の思想の源泉のようで、リベラルな経済思想を展開した本書でも、資本主義の成熟が「腐敗と金銭第一主義の時代をもたらす」というマルクス「哲学の貧困」の文章が引用されています。



『モラル・エコノミー』

ルイ・アルチュセール／河野健二・田村淑・西川長夫訳『マルクスのために』（平凡社ライブラリー・一七〇〇円）は、「構造主義的マルクス主義」と呼ばれた独自のマルクス主義哲学を展開し、マルクス主義のみならず、現代思想に絶大な影響を与えた哲学者アルチュセールの代表作。特に、単純な機械的因果性ではない「構造的因果性」を提起した論文「矛盾

と重層的決定」は、構造主義・ポスト構造主義を超えてシステム理論や複雑系にもつながる重要な論考です。



『マルクスのために』

真木悠介「現代社会の存立構造」(一九七七)は、社会学者・真木悠介(見田宗介)が近代社会の総体としての構造を根本から理論化しようという壮大な試みですが、真木はその考察をなんと『資本論』の読解を通して行っています。きわめて難解ですが、朝日出版社からの復刊には、愛弟子の大澤真幸氏の長大な解説が付されており、理解の助けになります。真木悠介／大澤真幸『現代社会の存立構造』『現代社会の存立構造』を讀む(朝日出版社・二八〇〇円)

二十世紀ドイツの最も傑出した批評家ヴァルター・ベンヤミンは、マルクス主

義者だったのか? 少なくともご本人の意識はそうだったようです。とくに有名な「複製技術時代の芸術作品」「歴史の概念について」などに顕著です。前者は「メディア論」の起源というべき古典的論考ですが、ベンヤミンは複製技術、マルクスの資本主義生産様式分析の現代化と、一九三〇年代に台頭していたファシズムとの対決という問題意識の下で論じています。「歴史の概念について」は、ずばり「史的唯物論」(唯物史観)をめぐるアフォリズム集ですが、普通のマルクス主義とは相当隔たりのある、しかしごく魅力的なテキストです。

ヴァルター・ベンヤミン／浅井健二郎編訳・久保哲司訳『ベンヤミン・コレクション①近代の意味』(ちくま学芸文庫・一五〇〇円)



『ベンヤミン・コレクション①近代の意味』

ハンナ・アレントの代表作の一つ「人間の条件」(一九五八年)は、人間が人間であるための最も基本的な条件を(労働)〈仕事〉(活動)とします。前二者は、マルクスのキーワードの一つである(労働)を、クリエイティブな(仕事)〈work〉と苦役としての(労働)〈labour〉の二つに分解したものと考えられます(この本の第三章「労働」は、マルクスの労働観の批判的検討に充てられています)。アレントはさらに言語による人と人の間の行為である(活動)〈action〉を加え、(労働)が優位で(仕事)〈活動〉が衰退させられていることが、現代世界の危機であると論じています。

ハンナ・アレント／志水速雄訳『人間の条件』(ちくま学芸文庫・二五〇〇円)

ユルゲン・ハーバーマス／山田正行・金慧訳『後期資本主義における正統化の問題』(岩波文庫・九七〇円)は、西欧マルクス主義の旗頭であった「フランクフルト学派」の最後のエースの一九七三年の著作。国家が市場に介入する「後期資本主義」においては、マルクスの危機(恐慌)理論はもはや有効でないという問題

意識から、新たに総合的な危機理論を構築しようという試みです。ハーバースはこのころから「マルクス離れ」するのですが、本書では経済的な側面については基本的にマルクス経済学のチームで分析しています。



『呪われた部分』

ジョルジュ・バタイユ／酒井健訳「呪われた部分」(ちくま学芸文庫・一三〇〇円)は、今回取り上げる本の中で最もマルクスから遠い一冊かもしれません。岡本太郎との交流でも知られるユニークな思想家バタイユは、本書で「全般経済学」と称する、生産よりも消費に注目する経済学を提起します。これは、マルクスも含めた経済学への強力なアンチテーゼと言えます。利益、成長をよしとし、損失、浪費を嫌う経済学に対し、過剰、贅沢、蕩尽といった生命エネルギーの発

現をとらえる「経済学」とはいえ、バタイユはマルクスに好意的で、マルクス主義は新しい宗教改革運動だと述べています。宗教改革とマルクス主義の類似を述べるあたりは前記の橋爪さんの本と共通しています。



『日本人はなぜ存在するか』

最後に、意外なところから一冊。與那覇潤『日本人はなぜ存在するか』(集英社文庫・五四〇円)は、新著「知性は死なない」(文藝春秋)が話題の與那覇さんの旧著の文庫化ですが、巻末の「解説にかえて」という長文インタビューで、與那覇さんはなんとアルチュセールの「矛盾と重層的決定」に言及しています。「日本人はなぜ存在するか」のキーワードは「再帰性」。簡単に言えば「そう思ったからそうなる」ということです。社会にはそういう側面が強くあり、私たちは

「私たち以外の誰かによって操られているのではない」「変化を起こしている犯人は、実は私たち自身」。そして、この再帰的な「みんな」は「再帰性のループ」から抜け出るためのヒントとして、アルチュセールの「重層的決定」が参照されます。重層的決定とは、「一見、首尾一貫した鉄壁の秩序があるようにみえても、細かく見ればそれは必ず、複数の再帰性が絡み合って存在している」ということであり、そうした複数の再帰性のあいだの「一番弱い環」をみつければ、そこが社会の変革を切り開く入口になるんだ、ということではないか。そうした「あいだ」に注目できるようにするために、「教養」が重要ではないか、と。そう、「肝腎なのは、世界を変革することである」ですね。(NTT出版 柴)

*愛書家の楽園・特集「あなたはマルクスを読んだか」で紹介した書籍は、ジュンク堂書店池袋本店一階エレベータ前と福岡店三階、丸善名古屋本店一階と京都本店地下二階にて、七月十日～八月九日までフェア展開中です。

7月5日(木)

教え、 育むといふこと

暑さが本格的となってきました。夏休みを心待ちにしている子どもたちをよそに、先生がたは学校が休みの期間も研修会、講習会など、本当に大変だと思えます。

筆者が小学生の頃は、先生がたのそんな苦労など知らず、夏休みを心待ちにし、それでも夏休みになれば学校が始まるのが待ち遠しく、飼育係だったのをいいことに人気の少ない学校へ行ってはニワトリやウサギの世話をする傍ら、様子を見にきてくれた先生とたわいない話をするのが楽しくもありました。そんな時の先生は授業中とはどこか違って、他の生徒は知らない何か特別な時間を過ごせているようで、嬉しかったのを憶えています。勉強熱心な生徒ではありませんでした。学校の先生からはいろんなことを教えていただいたと思えます。

ある時、クラスメイトの男の子が、自分の家の木になったザクロの実をひとつ、持ってきてくれました。担任の先生は、クラス全員に行き渡るようにそのザクロの実を一粒ずつ配ると、「ありがとう」と「いただきます」を彼に言ってから食べるように話されました。たった一

粒でしたが、その時の甘酸っぱい味は今でも心に残り、ふとしたときに思い出します。教育、というと難しく思われがちですが、物をもらったらお礼を言う、そういう当たり前なことが基本だと思います。

学校ではいろんなことを教えてくれます。

もちろん家庭も教育の場であり職場でもそうですが、親だけではなく、親戚や地域、上司など周りの人々からも日々教わることは多く、失敗しては学び、教えられ、成功すれば喜び、次は教えられたことを誰かに教えられるように成長し、心も身体も育まれ、生きていく限りそれは続いていくのだと思います。

学校現場での教育に戻しますと、道徳の教科化、小学校での外国語教育などが導入されました。

日々変わる教育現場ですが、教育書を探しに来られる先生たちの眼差しは真剣で、先輩の先生と来ている若い先生や、同僚の先生同士で教育について話しておられるのを拝見しますと、教えるということは、生きて賢いしていくことなのかと感じます。

ジュンク堂書店福岡店では、春は三月中旬から四月末まで、夏は七月初めより八月末まで、例年教育書のフェアを開催しております。

数ある教育書の中でも、この夏特におすすめしたい書籍をここで紹介させていただきます。

はじめに、眠ること、食べることなど身体を育むことからの書籍です。

★『睡眠教育のすすめ』

(学事出版・木田哲生著・一五〇〇円) ずばり、寝る子は育つ。

今まで数々の教育書が刊行されてはいますが、睡眠教育＝みんいくを扱った書籍は少ないです。大人になれば、変則的なシフト勤務で眠る時間がバラバラだったり、家事や育児で眠る間もなかったり、ワールドカップを観るために夜更かししたり、など個々の生活によって必然的に睡眠時間は短くなり、そうそう良い睡眠がとれるわけでもありません。長く眠れば良い睡眠、というわけではありませんが、個人的に長いにこしたことはないと思っておりますゆえ、本書に何が書いてあるのか興味がわきました。

推奨される睡眠時間をとれなければ、どのような影響が出るか。慢性疲労など身体へだけではなく、集中力の低下、人格の変化など、心の状態にも影響が出るそうです。本書には睡眠改善によって子どもの生活の質が向上すること、また実際にどのようにみんいくを行うべきかが書かれています。第三章の小学校での実践事例も興味深かったです。

同社から『みんいくハンドブック』も刊行されており、ビジュアルで見やすく子ども向けということで、おすすめです。

★『入門食育実践集』

(全国学校給食協会・藤本勇二編著・一七〇〇円)

食えることは人間が生きていくための基本と言えます。学校現場での食育が推進されてはいますが、野菜が食べられないというような好き嫌いのある子どもはまだまだまだ多く、昔は筆者もその一人でした。どんなに身体にいいからと言われても、身体によくてもおいしくないんじゃないかと心によくないとさえ思っていました。今思えば学校の給食は子どもの成長に必要な栄養がバランスよく摂れるように考え

られ献立が作られていたのがわかります。本書は、実際の学校現場での授業を例に、学習指導案に沿った目標、授業のポイントを解説してあります。実際に指導に使われたワークシートなどの参考文献、写真も織り交ぜられ、授業のヒントも載せられています。学年ごとにまとめられていますので、生徒の成長に応じた指導に役立つのではないかと思います。



『入門食育実践集』

学校現場では、子どもが体や心に不調を訴える場面もあるでしょう。筆者も怪我をしたり具合が悪くなった時には保健室の先生によくお世話になりました。用事がなくても行くくらいでしたから、保健室は心の拠り所であったのではないかと思います。保健室の先生はそういう時、

的確、適切に対応されます。そんな養護教諭の方に必要とされる

フィジカルアセスメントについての書籍をおすすめしたいと思えます。

★『学校の事例から学ぶフィジカルアセスメントワークブック』

(北樹出版・鋪野紀好医療監修・遠藤伸子、成川美和編著・二二〇〇円)

学校現場において、養護教諭のかたの判断力は重要です。この書籍は子どもの訴える不調のケースを例にあげ、どのように判断、処置すればよいか書かれています。事例を展開して学ぶ養護教諭の方のための書籍は少ないですが、徐々に増えてきていますので、ぜひご覧下さい。

次の二点もフィジカルアセスメント力の向上においておすすめですので、ぜひ手にとってください。

『すぐに使えてよくわかる 養護教諭のフィジカルアセスメント2』

(少年写真新聞社・北垣毅著・二七〇〇円)

『保健室で役立つステップアップフィジカルアセスメント』

(東山書房・山内豊明監修・二六〇〇円)

次は、二〇二〇年より必修化される小学校における英語とプログラミング教育

についての二点です。

★『先生のための授業で1番よく使う英会話 ミニフレーズ300』

(Jリサーチ出版・山崎裕一著・一八〇〇円)

グローバルな世の中ですから、英語は必須と言えるでしょう。本書は授業でよく使う英会話、というくらいですから、一日の大半を学校で過ごす先生にとっては日常会話に近いのではないのでしょうか。三〇〇ものフレーズが場面ごとに取り上げられており、短い言葉なので使いやすいと、とにかく見やすく作られています。英語といえば発音が難しく感じますが、カタカナ表記での発音が載っており、声に出しやすいと感じました。もちろん教室ではこの通りにいかないこともあるでしょうが、活用しやすい一冊だと思います。



『先生のための授業で1番よく使う英会話』



『小学校プログラミング教育がよくわかる本』

★『先生のための小学校プログラミング教育がよくわかる本』

(翔泳社・利根川裕太、佐藤智著・みんなのコード監修・一六八〇円)

プログラミング、と聞けば、パソコンのことが分からなければならぬ、プログラミング言語を習得しなければならない、なおかつ子どもにそれを教えていかなければならない、と不安になれる先生もいらっしゃるのではないのでしょうか。しかし読んでみると、決してそうではなく、プログラミング教育というのは教科として行うのではなく、算数や国語などの授業に落とし込み、子どもたちにプログラミング思考を身につけさせることをいうのだそうです。本書はプログラミング教育の入門書として、実際どのように授業で実践していくのかがわかりやすく書かれていますので、先生がたに

は気を張らずにプログラミング教育のコツをつかんでいただける一冊になるのではないのでしょうか。

情報教育といえば、家庭でも役立ちそうな一冊をひとつ。

★「11歳からの正しく怖がるインターネット―大人もネットで失敗しなくなる本」

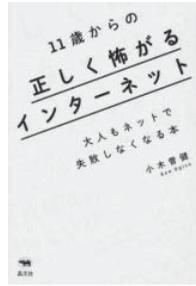
(晶文社・小木曾健著・一三〇〇円)

最近では多くの子どもがスマートフォンを持っていきます。この現状は親御さんにしてみれば、子どもがどこにいるのか、何をしているのかがいつでも把握でき、危機管理の面では安心なこととは思いますが、しかし弊害もあります。歩きスマホ、ネットに夢中になりすぎて生活に支障をきたす、これは子どもだけではなく大人もそうですが、ものはいいようで、持ち物次第などところがあります。確かに便利ですし、なければ生きていけないという人もいるでしょう。

本書は、出版社の営業さんにぜひと推された一冊です。営業さんに、「SNSで炎上した投稿ってどう対応します？消してはいけないんですよ。どうされま

す？」と聞かれ、答えの分からなかった筆者が読むしかなかった一冊です。いい営業をなさるな、と思ったので置いてみました。

情報教育が進む中、ネットは怖いもの、と思っておられる方のために、安心してインターネットを使うためのアドバイスの一冊としていかがでしょうか。



「11歳からの正しく怖がるインターネット」

次は個人的に大好きな音楽の授業からと、苦手だった学級あそびからです。

★「CD付き子どもが輝く指導のコツと楽しいリコーダー曲集130」

(ナツメ社・長岡むつみ著・二二〇〇円)

本書はリコーダー指導への情熱が伝わってくる一冊。著者の先生は各地でリコーダー指導をされてきた方で、数ある楽器の中でもリコーダーをとりあげ、ここまで丁寧に作られているものはなかなか

か他にはありません。教師でなくてもリコーダーをまたやってみたいノと思われる大人の教則本としてもよいのではないのでしょうか。

★「子どもが演奏したくなるヒットソング満載ノリコーダー曲集 ベスト102」

(民衆社・湯川徹編曲、さいとうみのる解説・二〇〇〇円)

こちらはリコーダーの曲集で、毎年よく売れています。クラシックから映画音楽、フォークソングやアニメソングなど、どれもこれも演奏してみたい曲ばかりで、見ていると、大人の筆者もワクワクしてしまいちゃってやってみようかな、なんて思い立ち楽器屋さんを足運びました。リコーダーにも種類があるので、パロク式とジャーマン式があり、選ぶところでまず躓き、家に帰って調べることとなりました。いい勉強になったと思います。

本書のなかでのおすすめはクラシック、スタジオ・ジブリ作品。こんな子どもたちが演奏してくれたら楽しすぎます。個人的に音楽の授業が大好きだった

籍を探しているお客様も増えてきました。なかでも本書の第一章の「できる通級指導教室担当になるための10の心得」は、不安になっておられる先生には良いアドバイスとなるのではないのでしょうか。

第二章の指導アイデアの各項目には、指導のねらい、指導方法、留意点が簡潔に書かれており、写真を挟みながら紹介されているのがわかりやすく、先生がたの助けになるのではないかと思います。実際の通級指導教室における事例をもとに、課題を設け、どのように指導していくかということも書かれておりますので、参考になるかと思えます。同社から出ている「中学校 通級指導教室を担当する先生のための指導・支援レシピ」(柘植雅義監修、小林靖編・一九六〇円)もおすすめてです。



『小学校 通級指導教室発達障害のある子を伸ばす! 指導アイデア』

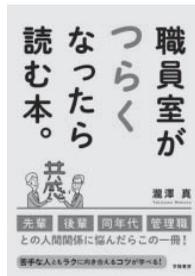
最後に、職場での人間関係についての書籍を紹介させていただきます。学校だけではなく、親と子の関係、職場の先輩や後輩、上司との関係など、どの場面においても人間関係というのは難しく、よいこともあればそうでないこともあるのが現実ではないのでしょうか。相性の良くない苦手に感じてしまう人は職場を変えたとしてもどこにでもあります。苦手な人は放っておけばいいという考え方ではなく、どのように付き合っていくべきなのか、うまくやっていくにはどうすればいいのか、社会で生きていく私たちにとてもは尽きない悩みのひとつです。

★『職員室がつらくなったら読む本』

(学陽書房・瀧澤真著・一七〇〇円)

本書は、学校現場においてつらくなた時に少しでも気がラクになるようなアドバイスとして書かれています。わからないことは積極的に尋ねる、挨拶する、敬意を払う、という基本的なことから、修行だと割り切る、他人は変えられないけど自分を変えることができる、考えすぎない、という半ば開き直りに近いことまで、読んでいるだけで少し気が楽になるような助言がたくさん書かれて

います。先生がたにはつらくなったらこの本を開いていただき、また月曜日から頑張れるようにおすすめたと思います。



『職員室が つらく なったら読む本。』

以上、数ある教育書の中から少しではありますがありますが、個人的におすすめしたい書籍を紹介させていただきました。

教育書の棚にある書籍だけでなく、いろいろなジャンルに教えること、育むことに活かされる良い書籍がまだまだいっぱいありますので、ぜひ書店に足を運んでいただき、一冊でも手に取ってもらえたら幸いです。

(ジエック堂書店福岡店・阿曾)

今月の
おすすめ

社会科学

特権キャリア警察官

時任兼著

全国三十万人の警察組織の頂点に君臨する、約六百人の警察キャリア。本書はその精鋭たちの実態に迫るノンフィクションである。

難関の国家試験を突破したあと、地方赴任を経験して、出世の階段をあがっていく。政治権力による、人事への圧力や捜査への介入など、裏側の事情が書かれていて濃い中身となっている。キャリアと県警というからみで、四十七都道府県警の特色を調べた章では、過去の不祥事や操作ミスも細かく載っていて、貴重な労作だ。

講談社

一五〇〇円

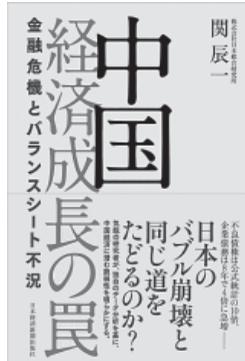
中国 経済成長の罠

関 辰一著

日本総合研究所の著者が、中国経済の最新事情を独自分析した二冊。一九九〇

年代前半に日本はバブル崩壊を経験したが、いまの中国はそのときの日本と状況が似ているらしい。二〇二二年までに、四十%もの確率で中国経済は危機的局面になると論じている。原因は巨額の不良債権と企業債務のため。

今や世界第二位の経済大国になった中国だが、その「国家資本主義」という発展モデルは一定の成果を見せているものの、格差の拡大など脆弱な部分が目立つ。日本経済新聞出版社 二二〇〇円



最新世界情勢講義50

パスカル・ボンファス著

著者はフランスの地政学と戦略のシンクタンク国際関係戦略研究所所長で、邦訳されている著書にベストセラー『最新世界情勢地図』がある。

グローバルゼーションや戦争と紛争などのテーマの中からよくある思い込みや定説を五十個取り上げ、それに対し隠された事実などを示しながら明快な解説で定説を覆していく。フランス人の著者の為かヨーロッパの問題に多く触れられているが、北朝鮮問題等も取り上げており最新の国際情勢を簡潔に把握できる。

デイスカヴァー・トゥエンティワン 一五〇〇円

『データブック』近未来予測2025

ティム・ジョーンズ、

キャロライン・デューイング著

著者はフューチャー・アジェンダという各分野の専門家たちによる未来予測のワークショップを開催している団体の共同創設者。彼らによる二〇一五年のワークショップでの成果が本書である。起りうる様々な問題を人や場所、信念などで分類し、その中でエネルギーや交通、女性問題という具体的な問題を論じるという独特な書き方である。巻末に日本語版のための増補があり、簡潔だが、日本の予測とこの三年間の検証を行っている。

早川書房 二二〇〇円

激動の世界をゆく

大越健介著

世界情勢を知るために最新ニュースは欠かせない。しかしニュースは時間的制約があり、どうしても伝わる内容は限られてしまう。その点ドキュメンタリーは取材も時間をかけ、丹念に多面的な現場の実情に触れることができる。それはこの本を読むだけでも感覚で伝わってくるものがある。

世界のどこも抑圧と自由への希求があり、各々に賛否がある。生の声を聞きに行くのは難しいが、ドキュメンタリーはその一助として大きな役割を担うだろう。

小学館

一三〇〇円

経営者

日本経済生き残りをかけた闘い

永野健二著

三菱、トヨタ、セブン&アイ、東芝など日本を代表する経営者が、どのようにして企業を存続させてきたのか。長年、日本経済新聞社の記者として活躍した著者により、専門的な立場から分析された一冊。

企業の生き残りをかけた経営者の決断

の背景にある葛藤を、当時の経済状況を

絡めて丁寧に分析した本書は、戦後の日本の企業経営を見つめ直す際に、さらには今後の企業経営を考える際に、「重要な「視点」を我々に教えてくれる。

新潮社

一七〇〇円



宇宙ビジネスの衝撃

大貫美鈴著

そもそも宇宙開発という分野は国家（政府）が主導してやっっている事業と思われがちだが、既に十年くらい前から世界では民間レベルにシフトしていると本書に書かれてあり、驚かされる。しかも、製造業や建設ではなく、IT企業がその中心だという。

宇宙にはITの先端技術を活用し、衛星から得られるビッグデータ等、様々な

ビジネスチャンスがあるようだ。更にその

の先には、宇宙旅行や火星移住といった計画が実現可能な案件として進行中。この新しい産業の持つ可能性は、まさに無限大と感じた。

ダイヤモンド社

一六〇〇円

スタートアップウェイ

エリック・リース著

スタートアップの世界的バイブル『リーン・スタートアップ』の著者の最新作。

社会変化のスピードが速まった今、既存事業の踏襲だけでは生き残れず、新規事業の育成は企業の新旧や大小を問わず重要度を増している。本書では組織が停滞せずに創造的な活動を続けるためのマネジメントメソッドを紹介する。

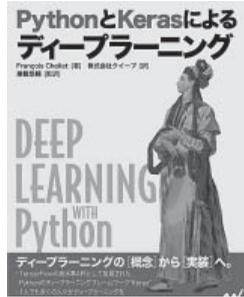
アントレプレナーシップは幸運や個人の能力によるものではなく、マネジメントで育てていけるものだという。ただ旧来型から脱した新しいマネジメント手法が必要なのだ。ベンチャー企業のみならず、停滞を感じる人や組織には、ぜひ手に取ってみてほしい。

日経BP社

二二〇〇円

今月の
おすすめ

コンピュータ



PythonとKerasによる
ディープラーニング

François Chollet 著

クイープ訳 美籠悠輔監訳

ディープラーニングフレームワークでいま最も人気が高いのは「TensorFlow」だが、機械学習ビギナーには記述が難しい。「Keras」は「TensorFlow」をはじめとするフレームワークをバックエンドにするので、より簡単にディープラーニングモデルを作成できるのが特徴。本書とPythonの知識さえあれば、すぐにでもディープラーニングの世界に触れることができる。

マイナビ出版

三八八〇円

コスパのいい
システムの作り方

南 大輔 著

システム開発において予算も時間も無限にあるならば理想のシステムを作ることができるとは、現実はずいぶん難しい。コストを抑えるために可用性や性能などなにかを諦め、どこかでリスクを引き受ける必要がある。数々の大規模金融システム開発に関わってきた著者が「必要以上の開発は行わない」「結局、プロジェクトの主役は人」など、コスパに優れたシステム作りには欠かせないコツを伝授する。

技術評論社

二七六〇円

実践CSIRTプレイブック

Jeff Bollinger 他著 飯島卓也他監訳

CSIRTとはコンピュータセキュリティインシデント対応チームの略で、プレイブックは彼らが事故の検知や攻撃に直面した際にとる対応手順などをまとめた、カスタムレポート集のこと。本書はシスコシステムズのCSIRTが十年以上にわたる運用の中で構築してきたプレイブックをもとに、世界トップクラスのセキュリティ監視と対応を網羅的に解説している。

オライリー・ジャパン 三二〇〇円

ソースコードで体感する
ネットワークの仕組み

小俣光之 著

前著「ルーター自作でわかるパケットの流れ」(同社・一八八〇円)ではパケットをやり取りするルーターのプログラムを自作することでネットワークについて学んだが、本書はネットワークを支える仕組みそのものである「TCP/IP」自体を実装してしまおうというもの。仮想Hホストを自分の手で記述することを通して、ネットワークがどう成り立っているかについて、より深く理解することができる。

技術評論社

二四八〇円

マンガでわかる！ 人工知能

松尾 豊監修 かんようこ作画

世は第三の人工知能ブームといわれ、一般向けの読み物から高度な専門書まで数多く出版される中、ビギナー向け解説書の決定版が登場した。各章、前半はストーリー仕立てのマンガで人工知能の歴史や現在注目が集まっている技術について触れ、後半の解説ページで詳しく紹介している。監修は人工知能の第一人者として知られる東京大学准教授の松尾豊氏。

KADOKAWA

一三〇〇円

今月の
おすすめ

自然科学

太陽を創った少年

僕はガレージの物理学者

トム・クラインズ著 自作ロケットを高く飛ばすことだけ考えていた九歳の少年は「世界を理解してもっと良い場所にした」と応用原子核物理学の世界に足を踏み入れる。廃材やウラン鉱石を集め自宅ガレージで実験を繰り返していた彼は、大学の実験室に個人用スペースを割いてもらい核融合炉を自作。テイラー・ウイルソンは十四歳で世界三十二番目の核融合成功者となった。

本書は彼を知るサイエンス誌のライターが家族や指導者への取材を交えて記したものだ。本人の魅力もさることながら、彼の指導者や家族など周囲の人々も魅力的に描かれている。

学力の足並みを揃えることを良しとする日本で、個性を伸ばすための教育機会は無きに等しい。だがもし貴方が未就学児の親ならば是非読んで欲しい一冊だ。

早川書房

二五〇〇円



ニュートンとマルクス

文理融合をめざして

土井日出夫著 本書は、文理の進学に悩む学生や、「科学」に対するコンプレックスを拭えない文系出身者「文学」や「歴史」を苦手と感じる理系出身者に対して書かれたものである。

著者は文理融合の道を、ニュートンとマルクスの読み込みによってひらこうとする。一年かけてマルクスの『資本論』を通読した著者は、そこに上向法の論理を見出し、一つの事象を「数式の計算によらずに、言葉によって論証する方法があることを知った」のである。『資本論』の構成が、言葉による社会科学の論証と、歴史的記述の対になっていることが、事

物の歴史的記述が読めなかった著者の読解を助けた。本書の見どころの一つは、そうしてマルクスを讀えたすぐ後、だがマルクスはニュートン力学を理解していなかったのだと喝破するような批評性にある。そして、「文理融合をめざして」と題すその裏声で、現代格差社会の「科学」的批判が歌われていることを聞き逃してはならない。

幻冬舎メディアコンサルティング

八〇〇円

単位と記号

パーフェクトガイド 単位や記号は私たちの生活をより便利に豊かなものにしてくれる役割を持っている。だが算数や理科などで習っている大人になると忘れてしまうもの、あるいは今まで理解していたつもりでもなかなか言葉で説明することが難しい記号もあるのではないだろうか。

本書はそんな身近にある単語や記号を丁寧にかつ写真や絵、見やすい文字で教えてくれる一冊である。今までの素朴な疑問やモヤモヤもイメージすることで感覚的に捉えることができるだろう。

誠文堂新光社

一六〇〇円

今月の
おすすめ

医学書

眼鏡・コンタクトレンズ
処方ハンドブック

梶田雅義著

若い世代に急増している「スマホ老眼」。パソコン・スマートフォンなどの情報端末が普及し、長時間眼を酷使することで眼精疲労が起こる。肩こり・めまい・頭痛・吐き気などを伴う全身の不調やうつ病になるケースもあり、重症化すると日常生活にも支障が出る。本書は、問診・視力測定のコツや、快適な矯正度数の考え方・屈折異常と症状別の処方ポイント・患者からよくされる質問と答え方などを解説。何よりも、矯正用具の特徴を最大限に活用できる処方方の研鑽を積むことが重要になる。眼科医・視能訓練士・眼鏡士・眼鏡店関係者など幅広い人に役立つ眼鏡・コンタクトレンズ処方技巧書になっている。眼精疲労に苦しむ人に「楽な視力」矯正をしたい。

三輪書店

六〇〇〇円



おだん子×エリザベスの
急変フィジカル

志水太郎著

週刊「医学界新聞」看護

版の好評連載が書籍化された。夜勤勤務も増え、慣れないながらも奮闘中の毎日を送る二年目ナースのおだん子ちゃんと患者の急変を見抜き、的確な対応ができる夜勤専従のベテランナースのエリザベス先輩が登場する。急変場面で悪戦苦闘するおだん子ちゃんにエリザベス先輩がアドバイスしていくという設定。臨場感あふれる十五の症例を2人の会話（やりとり）形式で紹介しているの、身につけたい技術や見逃さないでおきたい観察ポイントが分かりやすく学べる。急変対応に不安を抱えている若手看護師が自信につなげていける一冊。2人のイラストは、女性に人気のイラストレーター 蛭原

あきらさんが描いている。

医学書院

二二〇〇円

迷走する緩和ケア

エビデンスに潜む罠

岸本寛史著

エビデンスに基づく医療が広まっている今、そこに潜む盲点を事例を示しながら論じている。個々の患者に合った治療をするためのより良い方法とは。

誠信書房

三〇〇〇円

非呼吸器科医へささげる

呼吸器診療に恐怖を感じなくなる本

倉原 優著

堅苦しい医学書があまり好きではないという著者による、呼吸器内科のことをちよつと知っておける本。

金芳堂

三四〇〇円

日本でいちばんわかる

新医療政策のしくみ

鳥海和輝監修・原作

シリーズ五作目。二〇一八年度診療報酬対応。漫画担当・田中へことのトーク。

SCICUS

九二六円

今月の
おすすめ

人文科学

依存的な理性的動物

アラスデア・マツキンタイア著

マツキンタイアによると、人間にとつての徳とは、私たち一人一人が全くの個人としてではなく、何らかのコミュニティに帰属している存在であることを前提にして考えられなければならないものである。本書ではさらに、「傷つきやすさ」ゆえに他者に「依存」する存在であるという人間の生の根本条件をふまえた徳倫理学が展開される。自由主義社会に行き詰まる現代に読みたい一冊。

法政大学出版局

三三〇〇円

ヒストリーズ・ピープル

人格と個性が歴史を変える

マーガレット・マクミラン著

以前本稿で取り上げた『誘惑する歴史』の著者の新しい本が出た。ラジオ講演シリーズを基にしており、歴史上の様々なリーダーたちについて五つのテーマに分

けて語っている。歴史とは「語り口」であると自覚する著者だけあって、感情移入を恐れずかつ抑制的な文章は読ませる力がある。

えにし書房

二二〇〇円

感じて、ゆるす仏教

藤田一照、魚川祐司著

世界で活躍する禅僧・藤田一照は「これまでの仏教」に学びながら「これから」の仏教を思索し、仏教をアップデートしてきた。そんな彼がいま掲げている「感じて、ゆるす仏教」とは何なのか。その立場に至った経緯やその魅力的な本質について、気鋭の著述家・魚川祐司が新しい仏教のコンセプトを問いながら明らかにしていく、両者による初の対談本。

KADOKAWA

一五〇〇円

自分を変えれば人生が変わる

ジェフリー・E・ヤング、

ジャネット・S・クロスコ著

人生においてネガティブな行動をもたす十の性格の癖・スキーマを紹介し、それらを理解してどのように変えていけばよいか、そのアプローチが記された一冊。訳書にありがちな文化や生活習慣への違和感にも配慮。原著が刊行されてからかなりの時間が経っているにも関わらず、現代に生きる私達にも馴染みやすい内容となっている。

金剛出版

三二〇〇円

教師のブラック残業

内田 良、斉藤ひでみ著

公立校の教師には月八時間程度以上の残業代が支給されない、という事実を知らない方も少なからずおられるだろう。そのことを明記した給特法と、長時間残業、部活動に伴う休日出勤、休憩時間も取れない勤務形態など過酷な現場の実情との乖離があるのが現状である。その一端を、識者や現場の声から垣間見ることが出来る一冊。

学陽書房

一六〇〇円

藤田一照

感じて、ゆるす仏教

魚川祐司

今月の おすすめ

文学・文芸

17×63 鷹代航は覚えている

水生大海著

「なぜ入れ替わる相手がジジイなんだ。フツー、女の子だろ？」という嘆きもよくわかる。ある事件をきっかけに自分の祖父である章吾（六十三歳）と主人公・鷹代航（十七歳）は中身が入れ替わってしまったのだ。家族とはいえ性格も対照的なふたりが入れ替わり、それぞれの姿で生活を始めたのだからそれだけでも騒動が起こる。きっかけとなった事件の犯人もその狙いもわからないままだ。

周囲に言えない秘密を抱えたふたりが協力して難題に立ち向かうバディ&ジェネレーションギャップ・ミステリー。謎解きの要素はもちろん楽しめるし、違うカラダと視点を手にしたことで変わる心情と、航くんの人間的な成長も読みどころだ。

祥伝社

一四〇〇円



雲を離れた月

相川英輔著

軽々しく人の生死を予測してはいけないと年をとる程思う。命が不意に消えることなど考えもせずに、遊び半分で怪しげな占いなどしてみるのは幼さ故かもしれない。幼さの中には、息の根を止めるのに理由など求めない残酷さも秘めている。そんな人間の危うさを、学生生活を通して描いた、書き下ろし短編二編他からなる著者初めての小説集が話題の文芸誌「たべるのがおそい」から生まれた。

猟奇的に、後味悪く終わるのかと思いきや、蠟燭を吹き消すように、香りと煙たさと熱を残す。表紙に描かれた仮面の暗喩がじわりと滲んで、隠しきれないのは、誰の思いなのかと探ってしまう不思議な一冊。 書肆侃侃房 一五〇〇円

火のないところに煙は

芦沢 央著

作家が神楽坂を舞台にした怪談を書いてほしいと依頼を受けることから始まる。過去に体験した神楽坂で怖ろしい事件はまだ謎が解けていない。小説にすることで解決しようとするがうまく情報が集まらず、いくつかの怪異を取材し短編小説にして一冊の本にする。それぞれ繋がりのない怪異・事件だったはずが、共通点が浮かび上がる――。

本当に怖ろしい。「このまま読み進めてよいのだろうか？」と怯えながら、現実ではありませぬようにと願いながら読んでしまう小説。自分もこの事件と縁ができてしまうのではないか……ずっと恐怖がまとわりつく。

そして、ミステリーとしても恐るべし。謎が解けた!! いやいや、まだ終わってません! とどんどん展開していくのが面白い(後日談がさらに面白い)。ゾツとするシドキドキが止まらない怖ろしい小説だが、読み始めたら夜中でも手を止められなくなる連作短編怪談ミステリーだ。(装丁も込みで楽しめる!!)

新潮社

一六〇〇円



文庫・新書

瑕疵^{かし}借り

松岡圭祐著

心理的瑕疵物件とは、その場所で殺人、自殺、変死、など通常一般人が嫌悪感を持つであろうとされる出来事が過去にあった物件の事である。誰か一人でも住めば瑕疵の度合いがかなり軽減されると考えられ、大家から管理会社から依頼を受けて瑕疵について説明義務が生じた物件にあえて住む者を「瑕疵借り」と呼ぶそうだ。

この物語は瑕疵借りを生業とする男性が短い間住むことになった四つの物件と、そこで過去に起きた四つの死が描かれた連作短編集である。

亡くなったのは、そこで生きていたのは、家族でも、恋人でも、友人でもなかった。ただの他人だ。そう思えど、涙がただ溢れては落ち、を繰り返す。誰かを大切に想って暮らす、誠実で愛おしい人々たちが、確かにそこで生きていた。

悲しみや切なさだけではなく、温かい気持ちがあつとこみあげて、もうたまらなかった。

何も知らずに死に触れ傷ついていたひとが「瑕疵借り」に出会い、真実を知った時、生じた瑕疵は本当に軽減されるのだろうか。

講談社文庫

六六〇円

水戸黄門 天下の副編集長

月村了衛著

水戸黄門と言えば、前水戸藩主・徳川光圀公がちりめん問屋の隠居を名乗り、諸国を漫遊し悪を成敗……というストーリーでお馴染みである。そう言えばご隠居はなんのために諸国漫遊していたんだっけ……？ ざっくり「世直しの旅」とも言えるが、そこに明確な理由をつけて小説にしたのがこの作品である。

水戸藩が『国史』を編纂していたという史実を元に、光圀公は「書物問屋の隠居」として各地の執筆者に原稿を督促するために旅に出るのである。もちろんただ督促をするだけではなく、行く先々で事件が一行を待ち受ける。そこで活躍するのがお供の面々。助さ

ん角さん（名前は佐々介三郎、安積覚兵衛という実在の人物の名前を採用）、更にドラマには欠かせないあの人やあの人も登場。そして当然あの印籠も。

史実と創作のブレンドが絶妙なさじ加減の痛快娯楽時代小説。散りばめられたドラマや映画、出版に関する小ネタも楽しい。

徳間文庫

六七〇円

トヨタ現場の「オヤジ」たち

野地秩嘉著

現在、自動車産業は大きな転機に直面している。ライフスタイルの変化や、AIやロボティクスといった新しい技術。そのような状況下で創業八十年を迎えた、トヨタ自動車の現場で働く人々に焦点を当てた本書。トヨタのモノ作りの全責任を負っている、現場の工長や組長たち（部下からは親しみを込めて「オヤジ」と呼ばれている）、その中でも中卒の技能系たき上げでトヨタの副社長を務める河合満氏へのインタビューを中心とした、熱い情熱がほとばしるノンフィクション。仕事は人だ、と改めて思う。

新潮新書

七四〇円

今月の
おすすめ

芸
術

東京から日帰りで会える
仏像参り

田中ひろみ著

東京近郊だけでも、国宝・重要文化財に指定されている仏像は約三〇〇体にも及ぶらしい。本書では、東京から日帰りで参拜できる仏像を九十三体紹介。アクセスや拝観時の注意なども掲載されているため、「せっかく行ったのに開帳されていないかった」という事にもならないだろう。

案外近い場所にこんな仏像があったのか、という驚きもあり、次の休みはこの仏像を参拝しようかな、と考えるのも楽しい。

本書を手に、拝観しに行きたくなる仏像を探してみたいかがだろうか。

京都造形芸術大学東北芸術工科大学
出版局芸術学舎

一四〇〇円

獣でなぜ悪い

園 子温著

気が付くと読み終わっていた。こんなにするると言葉が入ってきたのは久しぶりで驚いている。著者である園子温は「愛のむきだし」「冷たい熱帯魚」「地獄でなぜ悪い」「新宿スワン」などを手がけ、今では知らない人の方が少ないであろう映画監督である。

本書は園映画の主演を務めた女優たち、監督自身が出会ってきた女性たちについて書かれているのだが、どのページにもこぼれ落ちそうになるほど愛が溢れていて心に沁みた。そんな愛溢れる監督からの女性たちに送る激励の書である。

「女よ、闘え。自由であれ。」と

文藝春秋

一二〇〇円



聖と俗

分断と架橋の美術史

宮下規久朗著

中世以来、西洋美術において繰り返しテーマに取り上げられ、表現されてきた「聖と俗」の対比。十六世紀の宗教改革を経て、一度バロック美術の中で結実した後、どのような変遷を辿ったのであるか。海を隔ててはるか東に位置する日本や、数世紀後の近代アメリカなどで展開していった様子を調査する。

本書は『カラヴァッジョ 聖性とヴィジョン』（名古屋大学出版会・四八〇〇円）で、サントリー学芸賞や地中海学会ヘレンド賞を受賞した著者の最新作。これまでに執筆された数々の論文の中から、再構成された十編と一編の書き下ろしが収録された。新たに加えられた章では、亡くなった人々の供養のために奉納された民衆美術作品についても言及される。死者やその先に潜む神聖な存在と、私たちが繋ぐ架け橋となる美術。美術が生まれ、この世に存在している意味を改めて考えさせられる。

岩波書店

三四〇〇円

今月の
おすすめ

実用書
地図・旅行書

あたたい、美人病になりました！

いさやまもとこ著

「美人病？ 何言ってるの？」と思う方も多いであろうその病気は、甲状腺の機能に異常が発生し、体調不良を起こす、「バセドウ病」である。ではなぜきちんとした病名があるにもかかわらず、美人病と呼ばれるのか。その理由は、罹患した方の外見に大きな変化が現れるからだと筆者は語る。ぎよろりと効果音がつきそうなほど大きくなる瞳、ホルモン分泌過多による急激な体重の減少など、一見すれば女性が美しくなるために求められる要素が症状として現れるためだ。

著者のいさやまもとこ氏は、この謎に包まれた美人病に罹患し、動悸や手足の震え・脱毛・無気力・体重の変化など、他にも様々な病状を乗り越え、自身と闘っていく様をコミックエッセイとして記録に残した。バセドウ病に関する書

籍があまり出回っていない中、こうして耳慣れないが罹患率の高い病気に触れるきっかけを作ってくれた本書に感謝したい。そして本書と出会うことにより、多くの方の世界を広げていけたらと願う。

講談社

一 二〇〇 円

ラダックの星

中村安希著

インドの北側、ヒマラヤ山脈とカラコルム山脈に挟まれた高山地帯、ラダック。チベット文化圏であるため、首都デリーとは主な宗教や食べ物にも違いがあり、一般的に知られるインドとは大きく趣の異なる地域だ。

二〇一四年九月、ラダックへ到着した著者・中村安希には「人生観をその根底からひっくり返してしまうような、ものすごい星空に出会う」という確固たる目的があった。道中よぎる、学生時代からの友人「ミズキ」との思い出。ミズキはもう、この世にはいない。その事実と向き合いながら、中村安希はヒマラヤ山脈の中を二十五日間かけて歩く。完璧な星空を目指して……。

紀行文でありながら、人間の「生死」について考えさせられる本書。しかし、決して重たくない。むしろ、より前向きに、晴れやかに日々を送ろうと思えるはずだ。今を生きるすべての人へ、ぜひ。

潮出版社

一 七〇〇 円

線路つまみ食い散歩

久住昌之著

「目的地もプランもない。それでも迷子にはならない。横には線路があるから」『孤独のグルメ』の著者である久住昌之による旅エッセイ『ニッポン線路つまみ歩き』（一五〇〇円）の第二弾。

線路に沿って歩いて、偶然見つけたお店でビールを飲む。温泉や銭湯に入っても戻るのは止まるのも、全てが自由。それが歩く旅の最大の魅力だと思う。

私たちは、いつも通っている通学路や通勤路以外の道をどれくらい知っているだろうか。行ったことのない町で、通ったことのない道を歩く。旅が終わった時には、何でもない道が懐かしい景色に変わっているのだ。

カンゼン

一 六〇〇 円

今月の
おすす
め

語学・辞典

今日のタメ口英語

Kazuma著 タメ口という言葉のインパクトから誤解されるかもしれないが、例文を見れば「ふだん使いの言葉」というコピーも納得できるはずだ。ツイッターへの投稿を書籍化したものなので、タメ口なんて使わない、と思う方も一度は目を通すことをお勧めしたい。

例えば「To tell the truth」は「実を言う」と覚えている人は多いだろうが「ぶっちゃけ」と流行り言葉のように覚えた人は少ないのではなからうか。あるいは「Do you mind?」だけで「やめてくれない?」という突き放した感のある表現と言われると驚きはしないだろうか。

この本はこれらのような意図しない伝わり方への気づきを与えてくれる。一つの表現がTPOによって意味を変えるのは日本語でもよくあること。表現の持つ意味の幅を意識するきっかけとして、まずはこの本のタメ口で気になるものを身

に付けてみてください。

KADOKAWA 一〇〇〇円

FASHION X ENGLISH
おしやれ英語図鑑

Rina文 あわのさえこイラスト
ワンピースやピアスが和製英語だということをご存じだろうか？

本書はファッション用語をカテゴリー別に、各アイテムを英日名・カラーイラスト・解説付きで見せてくれる。たとえばノースリーブ。英語では sleeveless。[※]は否定の接尾辞「ない…少ない」の意味、という解説を読めば、名前の理解と共に英語への親しみが湧いてくる。巻末のフレーズ集を活用すれば、SNSや海外での買い物といったコミュニケーションの場が広がるだろう。

夢中なもののために単語やフレーズを覚える、それこそが英語習得への近道という著者の言う通り、本書は気負わずに英語に親しめる内容となっている。Instagramで人気のあわのさえこの書き下ろしイラストもおしゃれで可愛らしい。まるで絵本のような楽しい学習書である。

DHC 一三〇〇円

日本人がよく使う

日本語会話

オノマトペ基本表現180

清 ルミ著

日本語の表現の豊かさの一端を担うのがオノマトペの多さだろう。擬音語・擬態語とも言う。海外にも人気がある日本の漫画を手にとるとよくわかる。セリフにだけでなく、場面や動きを表すため背景にも入っていることが普通である。

日本人はともよく使うのに、学校でオノマトペをじっくり習うわけではない。著者は前著、前前著でも日本人と日本語に特有な表現のうち日常会話に頻出なものを的確に選びだし、日本語を母語としない人の視点で日本人のことばの感覚を伝えられるような本を書いている。見出し語にはイラストがついていることもポイントだ。

英語の解説がつき、見出し語に二つずつ用例が記されている。用例にも英訳がつき、日本語部分のローマ字表記もある。類書が少ないので、日本語学習者はもちろん、日本語を教える人にもおすす
めだ。

Jリサーチ出版 一六〇〇円

今月の
おすすめ

児童書

にじさんになじさんどこいった

かわかみたかこ作

にじが大好きなみずたまちゃんには、にじさんと遊びたくてかけだします。途中で、にじさんと遊んでにじいろになったねこ・さかな・とりに会い、「にじさんはどこ？」と聞きます。雨が降ってきました。みずたまちゃんが家に戻りレインコートを着てかけだすと雨はすっかりあがり、そこににじさんが。みずたまちゃんと一緒に楽しくなる絵本です。

ほるぷ出版

一三〇〇円

にゆうどうぐも

野坂勇作さく

根本順吉監修

どんよりした曇り空のもと、朝のラジオ体操から夏の日が始まります。次第に強い日差しが照りつけ、子どもたちが青空の下を駆け回るなか、綿雲は徐々にもくもくとした入道雲へと変化。ついに

土砂降りの雨となり、激しい落雷に見舞われます。一つ一つの雲の特徴が光の濃淡や形で分かりやすく描かれ、自然科学への好奇心を誘う絵本です。

福音館書店

九〇〇円



ぼくが見た

お父さんのはじめてのなみだ

そうまこうへい作

石川えりこ絵

強くてたくましいお父さんのことが大好きなゆうきはある日、お父さんのなみだを一度も見たことがないことに気が付きます。その理由をたずねると、お父さんが話し出したのは、おじいちゃんが教えてくれた、人として、男として、大切なことでした。親子の繋がりを描いた温かい物語です。

佼成出版社

一二〇〇円

ふたごのカウボーイ

フーレンス・スロポドキン文

ルイス・スロポドキン絵 小宮 由訳

ふたごのネッドとドニーは、庭でカウボーイごっこをするのが大好きです。おたずねものや、やせいのどうぶつがいなか探していましたが、見つかりません。二人はついに庭から抜け出してしまします。カウボーイにすっかりなりきったふたごが引き起こす、周囲の大人たちも巻き込んだたのしいぼうけん物語です。

瑞雲舎

一三〇〇円

人の心に木を植える

畠山重篤著 スギヤマカナヨ絵

著者は気仙沼でカキの養殖を営んでいます。二〇一一年東日本震災で大津波に襲われ養殖場も何もかも流され、大きな被害を受けました。しかし、死んでしまったと思った海に魚が戻ってきたのです。それは、「森と川と海はひとつのものだ」という思いで著者たちが長年植林運動を続けてきた成果でした。地球上には、三つの森があると言います。山の森、海の森、そして、人々の心の森です。

講談社

一三〇〇円

ATION

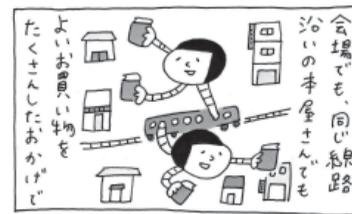
<p>丸善 ＝名古屋本店＝ ☎(052)238-0320 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝名古屋栄店＝ ☎(052)212-5360 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>丸善 ＝名古屋セントラルパーク店＝ ☎(052)971-1231 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝ロフト名古屋店＝ ☎(052)249-5592 〔営業時間〕10時半～20時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝名古屋店＝ ☎(052)589-6321 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>丸善 ＝岐阜店＝ ☎(058)297-7008 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>丸善 ＝四日市店＝ ☎(059)359-2340 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝滋賀草津店＝ ☎(077)569-5553 〔営業時間〕10時～22時</p> <p>丸善 ＝京都本店＝ ☎(075)253-1599 〔営業時間〕11時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝京都店＝ ☎(075)252-0101 〔営業時間〕10時～21時</p>	<p>ジュンク堂書店 ＝高槻店＝ ☎(072)686-5300 〔営業時間〕10時～22時</p> <p>MARUZEN & ジュンク堂書店 ＝梅田店＝ ☎(06)6292-7383 〔営業時間〕10時～22時</p> <p>丸善 ＝八尾アリオ店＝ ☎(072)990-0291 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>丸善 ＝高島屋大阪店＝ ☎(06)6630-6465 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝大阪本店＝ ☎(06)4799-1090 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝難波店＝ ☎(06)4396-4771 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝天満橋店＝ ☎(06)6920-3730 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝上本町店＝ ☎(06)6771-1005 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝近鉄あべのハルカス店＝ ☎(06)6626-2151 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝奈良店＝ ☎(0742)36-0801 〔営業時間〕10時～20時</p>	<p>ジュンク堂書店 ＝西宮店＝ ☎(0798)68-6300 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝芦屋店＝ ☎(0797)31-7440 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝神戸住吉店＝ ☎(078)854-5551 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝三宮駅前店＝ ☎(078)252-0777 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝三宮店＝ ☎(078)392-1001 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝神戸さんちか店＝ ☎(078)335-2877 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝舞子店＝ ☎(078)787-1250 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝明石店＝ ☎(078)918-6670 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝姫路店＝ ☎(079)221-8280 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>丸善 ＝岡山シンフォニービル店＝ ☎(086)233-4640 〔営業時間〕10時～20時</p>	<p>丸善 ＝広島店＝ ☎(082)504-6210 〔営業時間〕10時～22時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝広島駅前店＝ ☎(082)568-3000 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝高松店＝ ☎(087)832-0170 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝松山店＝ ☎(089)915-0075 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>丸善 ＝博多店＝ ☎(092)413-5401 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝福岡店＝ ☎(092)738-3322 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝大分店＝ ☎(097)536-8181 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>丸善 ＝天文館店＝ ☎(099)239-1221 〔営業時間〕10時～20時半</p> <p>ジュンク堂書店 ＝鹿児島店＝ ☎(099)216-8838 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝那覇店＝ ☎(098)860-7175 〔営業時間〕10時～22時</p>
---	---	--	---

<p>MARUZEN & ジュンク堂書店 ＝ 札幌店 ＝ ☎(011)223-1911 [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝ 旭川店 ＝ ☎(0166)26-1120 [営業時間] 10時～19時半</p> <p>ジュンク堂書店 ＝ 弘前中三店 ＝ ☎(0172)34-3131 [営業時間] 午前10時～ 午後7時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝ 盛岡店 ＝ ☎(019)601-6161 [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝ 秋田店 ＝ ☎(018)884-1370 [営業時間] 10時～20時</p> <p>丸善 ＝ 仙台アエル店 ＝ ☎(022)264-0151 [営業時間] 10時～21時 日・祝10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝ 仙台TR店 ＝ ☎(022)265-5656 [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝ 新潟店 ＝ ☎(025)374-4411 [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝ 郡山店 ＝ ☎(024)927-0440 [営業時間] 10時～19時</p>	<p>丸善 ＝ 水戸京成店 ＝ ☎(029)302-5071 [営業時間] 10時～21時</p> <p>丸善 ＝ 丸広百貨店飯能店 ＝ ☎(042)973-1111 [営業時間] 10時～19時</p> <p>丸善 ＝ 丸広百貨店東松山店 ＝ ☎(0493)23-1111 [営業時間] 10時～19時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝ 大宮高島屋店 ＝ ☎(048)640-3111 [営業時間] 10時～21時</p> <p>丸善 ＝ 桶川店 ＝ ☎(048)789-0011 [営業時間] 10時～21時</p> <p>丸善 ＝ 津田沼店 ＝ ☎(047)470-8311 [営業時間] 10時～21時</p> <p>丸善 ＝ 舞浜イクスピアリ店 ＝ ☎(047)305-5808 [営業時間] 11時～21時 土・日・祝10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝ 南船橋店 ＝ ☎(047)401-0330 [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝ 柏モディ店 ＝ ☎(04)7168-0215 [営業時間] 10時半～20時</p>	<p>MARUZEN & ジュンク堂書店 ＝ 渋谷店 ＝ ☎(03)5456-2111 [営業時間] 10時～21時</p> <p>丸善 ＝ 丸の内本店 ＝ ☎(03)5288-8881 [営業時間] 9時～21時</p> <p>丸善 ＝ 日本橋店 ＝ ☎(03)6214-2001 [営業時間] 9時半～20時半</p> <p>丸善 ＝ お茶の水店 ＝ ☎(03)3295-5581 [営業時間] 月～金10時～20時半 土10時～20時 日・祝10時～19時</p> <p>丸善 ＝ 多摩センター店 ＝ ☎(042)355-3220 [営業時間] 10時半～21時</p> <p>丸善 ＝ 有明ワンザ店 ＝ ☎(03)5530-5701 [営業時間] 10時～19時半</p> <p>丸善 ＝ メトロ・エム後楽園店 ＝ ☎(03)5684-5130 [営業時間] 10時～21時</p> <p>丸善 ＝ 新宿京王店 ＝ ☎(03)5321-8327 [営業時間] 10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝ 池袋本店 ＝ ☎(03)5956-6111 [営業時間] 10時～22時</p>	<p>ジュンク堂書店 ＝ プレスセンター店 ＝ ☎(03)3502-2600 [営業時間] 11時～19時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝ 大泉学園店 ＝ ☎(03)5947-3955 [営業時間] 10時～22時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝ 吉祥寺店 ＝ ☎(0422)28-5333 [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝ 立川高島屋店 ＝ ☎(042)512-9910 [営業時間] 10時～21時</p> <p>丸善 ＝ 横浜みなとみらい店 ＝ ☎(045)323-9660 [営業時間] 11時～20時</p> <p>丸善 ＝ ラゾーナ川崎店 ＝ ☎(044)520-1869 [営業時間] 10時～22時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝ 藤沢店 ＝ ☎(0466)52-1211 [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝ 岡島甲府店 ＝ ☎(055)231-0606 [営業時間] 10時半～19時</p> <p>丸善 ＝ 松本店 ＝ ☎(0263)31-8171 [営業時間] 10時～20時</p> <p>MARUZEN & ジュンク堂書店 ＝ 新静岡店 ＝ ☎(054)275-2777 [営業時間] 10時～21時</p>
--	---	--	---

営業時間は変更する場合がございます。ご了承ください。

定休日については、お手数をおかけしますが弊社HPまたは直接各店までお問い合わせ下さい。

ブックブレスター



ある本屋さんで開催されたトークイベントを聞きに行ったのです。

リュックは重くなったはずなのですが、

会場でも、同じ見送りの本屋さんでも。

来るときの倍くらいリュックが重くなっちゃいました。

山手に戻ってから校正病院に通っています。

投稿募集

☆読者の皆様の投稿を募集しています。最近読まれた本の感想文、本にまつわるエッセイ、など本に関するもの。最近読んでおもしろかった本、感動した本、考えさせられた本を教えてください。四〇〇字×六〇〇字程度で、おすめの本のタイトル、出版社、住所、氏名(ペンネーム可)、年齢、職業を明記の上、お送り下さい。掲載分には二千円の図書カードを差し上げます。なお、原稿はお返しいたしませんのでご了承下さい。

〒171-0022 東京都豊島区南池袋二一五一一

丸善ジュンク堂書店「書標」編集室
TEL〇三―五九五六―六一一

いつも「書標」をご愛読いただきましてありがとうございます。本誌定期購読料は以下の通りです。

定期購読料 年間二二〇〇円(送料込)
現金書留もしくは八十二円切手十五枚で

お申し込み先

〒171-0022 東京都豊島区南池袋二一五一一

丸善ジュンク堂書店特急便係
TEL〇三―五九五六―六一二〇
FAX〇三―五九五六―六一〇〇

編集後記

例年春には各店舗で教育書フェアが開催されるが、膨大な点数になることもあり、なかなか誌面で紹介することができなかった。今号では、春と夏に教育書フェアを開催する福岡店からその一端を紹介する。

(緒)



PC・スマートフォンから
<http://www.junkudo.co.jp/>

QRコード



「ふわっとした
問い合わせ」

半年程前、現在いる店舗に異動してきました。それまでは専門書を扱うフロアにおり、お問い合わせを受ける時は、スマホの画面を見せられるかタイトルを言われることが大半でした。ですので、タイトルが分かれば「少々お待ちください」とすぐに本を取りに歩きだしていました。

しかし今の店舗では大分勝手が違います。全ジャンルが一フロアにあり、問い合わせをされる本が自分の担当ジャンルの本ではないことが多いので、タイトルが分かっても在庫があるのか、棚の位置がどこなのか検索しないと分かりません。それに「今朝の○○新聞に載ってたんだけど、□□について書いてある本を探してるの」といった感じで、そもそも

タイトルが分からないことも多々あります。なのでお客様と一緒に検索画面を見ながら「今朝の○○新聞に載ってたということはきっとこちらですね」と確認し本を取りに行ってお渡ししています。

昔は目録を見て本を探していたんだよという話を先輩方から伺ったのを思い出しては、今は便利になったなあと感じています。

つい先日はさらにふわっとした問い合わせを受けました。

「テレビに出ていた心理学者の人が書いた、時間に関しての本を探しているんだけど」

(心理学者？ 人文か？ 時間……?)

と思いつつ、とりあえずお客様とパソコンの前まで移動しました。お客様に言われたキーワードを打ち込みつつ検索しましたが、全く分かりません。

「タイトルの一部だけでも分かれますか？ その方の名前は覚えてらっしゃいますか？ 何の番組でしたか？」

「覚えてないなあ」

正直お手上げかもしれないと思いましたがネットで検索しつつ脳内で必死に考えました。

(最近出版社さんからのパブ情報って何があったっけ、時間がタイトルに入る本、うーん……もしやあれか?)

と思いつき、一冊持ってきてお客様にお渡しすると、見事正解。

「これだね、ありがとう」と、ご購入下さいました。

※正解は、メンタリストDaigo著『週40時間の自由をつくる超時間術』(実務教育出版・一四〇〇円)でした。

問い合わせ内容がたまたま自分の覚えていたこととうまく噛み合ったからこそ探せたのですが、ふわっとした内容の問い合わせにどんぴしゃで本を持ってこられるのは嬉しいものです。そのためにもコツコツとした情報収集を怠ってはいけないなと思いつつ、日々仕事をしていきます。(A)

「書標 ほんのしるべ」 第47号

編集・発行人 工藤 恭孝

発行所 (株)丸善ジュンク堂書店

印刷所 (株)七 旺 社

二〇一八年七月五日発行 頒価五十円(本体四十六円)

〒160-0008

〒653-0012

東京都新宿区三栄町二十九 ニューワールドビルディング

神戸市長田区一番町四丁目二十七番地

「書標 ほんのしるべ」昭和61年7月15日第三種郵便物認可
2018年7月5日発行（毎月1回5日発行 通巻第476号）



日本全国で
3,000万冊の品揃え!
丸善ジュンク堂書店

頒価 五十円（本体 四十六円）

ジュンク堂書店

淳久堂書店

M MARUZEN